

学校 教育 目標	洋々たる未来を 光り輝いて生きる力の 土台をつくります ≪誰もが笑顔の 洋光台第二小学校を目指して≫ 「知」話す・聞く力を伸ばし、めあてに向かって諦めずに取り組む子を育てます。 「徳」善悪をきちんと判断し、誰に対しても思いやりのある行動ができる子を育てます。 「体」適切な運動と望ましい食生活を実践し、いのちと体を大切にすることを育てます。 「公」人の役に立つことに喜びを感じ、地域の人たちとのつながりを大切にすることを育てます。 「開」学校を取り巻く環境に目を向け、人とのコミュニケーションを通して、自分の良さを伸ばそうとする子を育てます。			
	創立 53 周年	学校長 野村 光	副校長 小澤 孝之	2 学期制 一般学級: 14 個別支援学級: 4

学校概要	児童生徒数: 462 人	主な関係校: 洋光台第四小学校、洋光台第二中学校 浜中学校
------	--------------	-------------------------------

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	洋二中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的な取組
<心身ともにたくましく生きる力> <意欲的に学び、自分づくりに資する力> <多様性を認め、他と共生しあう力> <学校生活や地域へ参画する姿勢> <人とのコミュニケーション能力>	洋光台第二中 洋光台第四小 洋光台第二小	認め合い、学びあい、心身共に健やかに生きる子ども ・道徳教育や人権教育を通じた自尊感情や自己有用感を高める教育の実践。 ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した指導法改善や授業研究の取組。 ・9年間の成長を見通した児童生徒指導や特別支援教育の情報交換の実行。

中期 取組 目標	1. 「学力向上や人間関係の育成を目指す学校」2. 「生命・安全・人権を大切にする学校」3. 「使命感をもつ教職員がいる学校」 4. 「地域社会のネットワークを生かす学校」を指針とする、洋二小チーム力を伸ばします。 ①洋二小の児童、誰もが笑顔で日々を過ごし、豊かな人間関係を育みながら、自己有用感を高め、基礎学力をしっかりと身に付けられるようになります。 ②善いものや美しいもの、尊いもの等にあこがれる豊かな情操と人権意識を育み、自分の生き方を見つめる力を育てます。 ③一人ひとりが力を発揮し、教職員のチーム力を向上させ、組織として対応できる職員・教員集団を作ります。 ④学校運営協議会・PTA・学援隊等との円滑な連携を組み、安心・安全な学校づくりを推進します。
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①資質・能力を明確にした指導と適切な学習評価に努め、カリキュラム・マネジメントを推し進める。 ②研修会や授業研究会など、重点研究の取り組みを通して、自分たちの思いや願いを大切にしながら問題を発見したり解決したりして、生き生きと学びに向かう児童の育成を図る。
担当	重点研・学習指導部	
徳	道徳・人権教育	①道徳教育と人権教育により、心の教育を充実させることから、いじめのない学校づくりを目指す。 ②児童主体のあいさつ運動の実践と、状況に応じた、たてわり活動の充実を図ることにより、児童相互のコミュニケーション能力の向上を図ると共に、人権感覚を養っていく。
担当	人権教育部	
体	健康教育	①体育学習の一単位時間の充実を図るために、実技研修を通して指導内容の確認と確実な定着を図ることから、体力の向上につなげていく。 ②児童の日々の様子や健診結果などから課題を見出し、学校保健委員会での活動を通して改善を図る。
担当	体育部・健康教育部	
公開	地域学校協働活動	①学校運営協議会の助言や評価を受けて教育活動の改善を図ると共に地域行事に参加し、地域と共に生きる学校となるよう連携を進めていく。 ②地域コーディネータの方との連携をさらに深め、地域の教材(人、もの、こと)を開発し、学習支援を充実させる。
担当	管理職・教務	
GIGAスクール		①各学年で育成すべき情報活用能力の項目を意識し、年間を通して情報教育を進めていく。 ②児童が学習の中で、タブレット端末を主体的に活用できるよう、様々な教科の中にタブレット端末を使う場面を積極的に取り入れていく。
担当	情報教育部	
いじめへの対応		①いじめへの感度を高めながら児童を見守り、毎月のいじめ防止対策委員会で児童に関する情報共有をして、いじめの早期発見、早期解決に務める。 ②職員研修を実施して、全教職員のいじめに対するアンテナを高くすると共に、児童アンケートの結果を担任と関係職員で丁寧に読み取り、学級経営や児童指導、支援につなげられるようにする。
特別支援教育		①児童の困り感を的確に見取り、学習支援の方法を工夫したり特別支援教室を利用したりして個に応じた支援を実践する。 ②横浜型支援センター機能を利用して専門的な視点からアドバイスをいただいたり、scやsswなど専門機関とつながりながら教職員の指導力向上をめざす。
担当	児童指導・特別支援教育部、通級	
児童支援		①学校のきまりや学校スタンダードが洋二小の指導の拠り所であると全職員で共通理解する。児童にはなぜそのきまりがあるのか考える機会を通して、きまりを守って生活しようという意識を育てていく。 ②情報共有と情報の確実な引継ぎをして、児童への適切な指導や支援、トラブルの未然解決につなげる。
担当	児童指導・特別支援教育部	
人材育成・組織運営		①メンターチームのリーダーが中心となってメンバーとともに自分たちの自己研鑽につながる企画を立て、取り組みを進めていく。教務は日程調整などでメンターチームの運営が円滑に進むようにサポートする。 ②分掌の担当者が自主的な運営をすること、ミライムを活用することにより、全体での会議を減らしていく。学年内での専門性を生かした授業交換や授業ローテーションを、学年の実態に応じながらさらに進めていく。
担当	教務部、メンターチーム	
担当		